

中村雅一後援会ニュース

後援会事務所 あきる野市上代継367番地 ☎ 042-558-0341
E-mail:masaichi.n@nifty.com <http://homepag2.nifty.com/nakamura-masaichi/>

厳しい状況見据えて慎重な財政運営を

予算特別委員会傍聴記

3月22日と24日、平成18年度予算案を審議する予算特別委員会が開催されました。私は、その第1日目を傍聴しましたので、若干私見を交えながら報告いたします。

平成18年度の各予算案は、下水道、受託水道特別会計は全員の賛成、一般会計を含むその他の予算案は、今年も共産党が反対したものの、他の会派の賛成多数で可決、成立しました。

一般会計約273億円（対前年度比5.3%増）、国保、介護保険などの特別会計合わせて約190億円、総計では463億円（前年度比4.1%増）となっています。

田中市長は、今年の予算を「投資・建設積極型予算」と説明しましたが、私はこの「積極型」予算編成は、評価の別れるところではないかと思えます。

というのも、地方財政をと

りまく環境は依然として厳しく、あきる野市も決して例外ではないからです。

たしかに市税収入は前年度比1億2千万円（1.1%）増えてはいるものの、その中身をみると固定資産税は減収見込みであるのに対して市民税3億8千万円余（9.1%）増収となっています。しかしこれは、市民一人一人の所得が増えたためではなく、定率減税が廃止となったため、要するに実質的増税によるものなのです。

また、地方分権のためと称する三位一体改革の結果、地方譲与税は2億9千万円弱（58.2%増）増えた一方、地方交付税、国庫支出金は6億8千万円余も減少し、国から地方への財源移譲はとても充分とはいえません。

しかも、用途が限定されない一般財源ベースでは3億円余も減って、財政運営の自由



度は一層狭まっています。

結局、財政規模の拡大は市債（借入金）の増加（5.3%）に依存しているわけです。

予算化されたどの施策もムダだとは思いません。しかし、引続き地方財政が非常に厳しい状況にあることを考えると、より一層施策の重点化や、市民との協働をすすめるなどして慎重な財政運営を望みたいと思います。

中村雅一

自治基本条例で最終報告

前号で報告した通り、中村さんも委員として参加している自治基本条例市民検討委員会は3月末、最終報告書を取りまとめ、市長に答申しました。

自治基本条例とは、市の自

治の理念、市政運営の原則、市民の市政への参画と協働についての基本的事項を定めるもので、自治体の憲法ともいえるべきものです。

前回の報告で結論のでていなかった住民投票制度につい

ては、基本的考え方は基本条例に盛り込み、個別具体的な制度設計と実施については市の検討に委ねるとともに、市議会の議決によって個別条例を定めるのが適当、ということになりました。

また、オンブズマン制度については、委員のなかで大きく意見が分かれ、不確定要素も多いため、今後、市において検討されることを期待し、「市民の権利利益の保護を図る仕組みを整備することが必要」との趣旨を付言するに止まりました。

今後は、市当局及び市議会において「答申」を尊重し、速やかに自治基本条例が制定されるよう願って止みません。



検討委員

雅一の 独り言

永田元議員の「偽メール」問題は、本当に腹立たしい事件だった。永田氏本人はもちろん、民主党の対応も、それを耐震偽装、BSE、防衛施設庁の官製談合、ライブドアの粉飾決算、米軍再編などでの野党の追及を逸らすことに利用した与党も、「偽メール」一色で報道したマスコミの対応も、どれもこれも腹立たしい。

本来、これら国民の生命・財産、国民生活の安全・安心に重大な影響を及ぼす問題については、たとえ「偽メール」問題があろうとも、優先的に政治の責任において解明、解決すべきことは自明のはずです。

特に私が残念でならないのは、こうした事件・事故と政府がすすめてきた「規制緩和」「構造改革」との関連性の解明がまったく追及され

なかったことです。

例えば耐震偽装問題は、過度な競争・効率を煽り立てる市場万能なしに、また建築確認事務の民間参入なしには起こり得なかったのではないのでしょうか。民間参入を認めるなら不正や偽装を厳しくチェックするシステムも同時につくるべきではなかったか…。

安全・安心、公平・公正などは市場原理とは相容れず、これは政治と行政の責任で確保するほかないものだからです。

こんななかでヒーロー視されたのが堀江被告ですが、「お金万能」の社会的風潮が蔓延し、格差の拡大とともに人心を荒廃させているのではないかとの疑いを禁じ得ないのです。

新渡戸稲造『武士道』や藤原正彦『国家の品格』がバイトセラーになるのも、多くの人が、この風潮に危惧を感じているからではないのでしょうか。

とまれ、時流に流されることなく、子どもたちが未来に希望もてる社会づくりに知恵と力を出し合いたいものです。